

会議録

会議の名称	令和5年度第14回新城市若者議会
開催日時	令和6年2月22日（木）午後7時から午後9時まで
開催場所	市役所4階会議室
会議の内容	<p>令和5年度第14回新城市若者議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者議会についての説明 ・第9期若者議会活動報告 ・巨大すごろく ・ぶっちゃけトーク！！（お悩み相談会） ・委員会ごとの会議

1 若者議会についての説明

第10期若者議会への参加を検討している方たちに向けて若者議会の概要を説明した。

2 第9期若者議会活動報告

各委員会から3つの事業について活動報告を行った。以下は活動報告の内容である。

<p>まちづくり 委員会 「集まりん 深まりん かふえりん 事業」</p>	<p>この委員会では、若者や子どもが活気づいているまちを目指します。今回、私たちが提案する事業では、まちなみ情報センター1階で交流が生まれ、深まり、若者が主体的に活動できる環境づくりに繋がる空間づくりを目指します。</p> <p>学習利用だけでなく、カフェのように自然と話し、交流することができるような空間を再構築し、若者が活発に交流できる雰囲気をつくります。</p> <p>また、まちなみ情報センターは、駅前にあるため、バスや電車などの公共交通機関を利用する人も待合所として活用できるような空間にすることで、さらなる利用者の増加につながります。</p> <p>政策案の詳細についてご説明します。</p> <p>まず、ターゲットは、まちなみ情報センターの主要な利用者である10代から20代の市内の若者を対象としています。</p> <p>政策案は、若者が活発に交流できるような空間づくりを目指し、</p>
-----------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>まちなみ情報センターの中で外からでもすぐに変化を感じ取れる1階に若者が交流しやすくなるスペースを整備します。</p> <p>具体的には空間づくりのためには、家具の追加やレイアウトの変更、それらのリノベーションの周知による環境づくりを行います。</p> <p>追加する家具等は、交流のためのグループ席、学習や待合室としても利用できるように一人用席、ソファを設けます。</p> <p>また、現状、あまり利用されていないボードゲームが交流の起点となるように、ボードゲームが利用者の手に取りやすいよう、配置の変更、PR等を実施します。</p> <p>最後に、雰囲気づくりの一環として、カフェのBGMのような曲を流し、しゃべりやすい雰囲気づくりをします。</p> <p>さらにリノベーションだけでなく、政策を周知のために主要な利用者である10代から20代の市内の若者へまちなみ情報センターの活用方法のPRを計画しています。</p> <p>周知の目的としては、リノベーションの周知とまちなみ情報センターを交流で利用してほしいことを知らない人もいるので、まちなみ情報センターが交流を目的としている施設であることを再度市内の若者に認識してもらうことが兼ねられています。</p> <p>公共施設や学校などにポスターを掲示するほか小中高生にはリーフレットの配布、20代の若者にはインスタグラムの広告を使用し周知を行います。</p> <p>以上の政策の実施により、まちなみ情報センターが市民活動の支援や交流活動に対しての新城地区の拠点となります。さらに、作手地区のつくで交流館、鳳来地区の市民センターほうらいの施設の利用も若者に周知し、まちなみ情報センターと合わせて、市全体の市民活動の活性化を見込むことができると考えます。</p>
<p>若者議会 委員会 「Newジェネ事業」</p>	<p>若者議会委員会では、若者がまちづくりに興味を持てるまち、そしてまちづくりに挑戦できるまちを目指すことを目的として、「Newジェネ事業」という次の世代に繋ぐ事業を提案しました。</p> <p>昨年度行われた「若者議会に関するアンケート」で若者議会の名前は聞いたことがあるけど内容は知らないという回答や、堅い、難しそう、大変そうといったマイナスイメージが多い傾向が見られました。そして、若者議会に参加してみたいと思うかという問いに対しては、全体の9割以上が「いいえ」と回答しており、近年若者議会では新規委員の獲得が課題になっています。</p>

以上のことから、まずは小さい頃からまちづくりや若者議会について知ってもらい、難しそう、堅そうといったイメージを打破すべきだと考えました。

そこで、ターゲットを市内の小中学生とし、広報物の作成による若者議会のPRとつながる地域と若者の輪のアップグレードの2つの政策を提案しました。

まず1つ目の若者議会のPRについてです。この政策ではポスターとカードの2種類の広報物を作成し、若者議会のPRをします。

現在若者議会は、堅そうというイメージを持たれているため、そのイメージを変えられるよう、ポスターはクスッと笑えるような内容のデザインで4種類作成し、市内の学校、公共施設、駅、コンビニ、飲食店などに掲示しようと考えています。

カードは名刺サイズで作成します。これはチラシなどよりも邪魔になりにくいいため、手に取られやすく、捨てられにくいと考えたからです。内容は表面はポスターと同じデザインを使用し、裏面には若者議会についての情報などを記載することを検討しています。配布先は市内の学校、公共施設、飲食店のレジ横などを想定しています。

次に2つ目のつながる地域と若者の輪のアップグレードについてです。現在、中学生を対象とした「つながる地域と若者の輪」が1年に1回開催されていますが、参加者数が少ないため、内容をブラッシュアップすることによってより多くの方に参加していただきたいと思っています。現状のものから変更する点は主に場所、時間、内容、周知方法の4点です。場所は市役所会議室から中学校に変更します。これは市役所という行政機関に中学生が来るのはハードルが高いのではと考えたからです。中学生にとっては学校が最も身近な場所であるため、気軽に参加することができると思います。時間については2時間では短いのではと考え、試験的にお昼を挟んだ4時間に伸ばしてみることにしました。内容としては、午前にフィールドワークを追加し、午後は例年どおりグループワークを行います。フィールドワークを追加することで、新たな気づきにつながり、より広い視点でグループワークに取り組んでもらうことができると考えています。また、周知する際にもフィールドワークが新たな参加のきっかけの1つになることが期待できます。グループワークを終えたあとは、市長の前で考え

	<p>た案を発表してもらうことで、参加者に市政やまちづくりに参加しているという感覚を持ってもらうことができ、よりやりがいを感じてもらえると思います。周知方法については、現在の白黒チラシからカラーチラシへと変更し、チラシの内容やデザインについてもより中学生の興味をひくようなものを今後検討していきます。</p> <p>また、提案した2つの政策だけでなく、自分たちでも若者議会のPRをしたいと思っています。今度の日曜日に軽トラ市でPRをしますので、皆さんぜひ遊びに来てください。</p>
<p>農業委員会 「seed s for しんしろ～ おいしいで つながる地 域の〇(わ)～ 事業」</p>	<p>私達は、はじめに新城市の農業の課題が何かを考えました。新城市は、農業従事者の高齢化や天候・価格に左右されやすく経営が大変なことなどから農業人口が減少し、管理されない農地の増加、獣害、景観悪化などが問題になっています。このような状況が続けば、農業を通して新城市に住み続けたいと思っても住めないような事態に陥る可能性があると考えます。このため、農業人口の減少を少しでも減らし、農地の管理が行き渡るようにすることで、市の農業が守られ、「住み続けられるまちとなる」となると考えました。</p> <p>しかし、急に農業人口を増やすことは難しいと思います。また、新規就農者については、市農業課などによるサポートがあり、毎年一定数が就農していると知りました。一方で、新城市には評価される魅力的な特産品がありますが、地元の人ですらそのことを余り知りません。</p> <p>そこで、まずは、「知られていない」という課題をクリアするために、私達は就農までは考えていないが、農業に興味がある層を中心に、新城市の農業に興味を持ってもらえるよう3つの政策を提案しました。</p> <p>1つ目は、キャンプ用特産品セットの販売を促進する政策です。近年、市内のキャンプ場が増え、キャンプに訪れる人が増えていきます。そこで、キャンプに訪れる人に対して、地元野菜や鳳来牛のセットなど、キャンプで使う食材のセットを販売してもらうよう地元スーパーなどへ提案します。これにより、キャンプに訪れた人が新城市で食材を手に入れ、市の特産品を実際に味わってもらうことで、そのおいしさをPRすることができます。ただし、販売すること自体は、スーパー等の判断によるため、提案するのみとなります。</p>

	<p>2つ目は、給食レシピコンテストを行う政策です。市民への地場産物のPRとして、市内在住の方を対象に給食レシピコンテストを実施します。入賞者には、賞状と賞品を授与するとともに、最優秀賞等に選ばれたレシピを市のホームページや広報紙などに掲載し、地産地消の普及啓発につなげたいと考えています。特に、子どもの頃から地場産物を学び、食べることで子どもたちの農業への関心を生むことができます。給食コンテストの募集内容としては、以下の2点を条件とします。1つ目は、地場産物を使用した一品料理で加熱調理した料理であること、2つ目は、1品を1人当たり180円程度で作ることができることです。賞状や記念品も用意し、記念品は新城市の特産品やいいじゃん券とします。審査は、書類審査と試食審査を行う予定です。</p> <p>3つ目は、農業体験等の紹介です。新城市の農業を紹介することに特化したパンフレットPRやポスターの作成をします。これらは移住相談会や名古屋のアンテナショップで掲示するなどをして活用する予定です。パンフレットでは、新城市内で実施される各種農業体験を紹介し、農業体験を紹介するWEBページを作成し、パンフレットからアクセスできるように二次元コードを掲載したいと考えています。また、新城市の雰囲気や農業の情報、農業を生業としている移住した人の声、新城でできる趣味などを載せることで新城市に移住するイメージを容易にします。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 巨大すごろく

過去に若者議会の提案事業により作成した若者議会や新城市に関する巨大すごろくを行った。

4 ぶっちゃけトーク！！（お悩み相談会）

グループに分かれて、参加者が第9期若者議会のメンバーに聞きたいことや第10期若者議会に応募するにあたり不安なことなどを質問する時間とした。

5 委員会ごとの会議

各委員会に分かれて、事業の詳細等について話し合った。

終了時間：午後9時